

## 8月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和5年8月7日（月）10時00分～11時00分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
  - ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
  - ② 毎日新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
  - ③ 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
  - ④ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
  - ⑤ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
  - ⑥ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
  - ⑦ NHK 南相馬報道室（南相馬記者クラブ会員）

計 7 社

### < 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・新田副市長・教育長・小高区役所長
- ・鹿島区役所長・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
- ・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長
- ・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事
- ・農林水産部長・農林水産部整備担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 18 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

はじめに、日本子育て支援大賞の受賞についてです。

7月19日に、南相馬市は一般社団法人 日本子育て支援協会が選ぶ「第4回日本子育て支援大賞 2023」の自治体部門を受賞しました。

医療費・保育料・給食費の「3つの完全無料化」など、出会いから子育てまで切れ目のない支援を進めており、今回はそれらの取り組みが高く評価されての受賞です。

今後、地域社会全体で連携・協力しながら、子育て世帯を応援し、「こどもたちの笑顔がかがやくまち」の実現に向け、取り組んでまいります。

次に、ペンドルトン市派遣団についてです。

姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ペンドルトン市の学生らが約4年ぶりに本市を訪問し、相馬野馬追などの伝統文化の体験や、市内高校生らとの交流などを行っていただきました。

8月8日には、本市の高校生6人がペンドルトン市へ向けて出発します。

今後もペンドルトン市と南相馬市との恒久的な友好・親善・交流の一層の進展を図ってまいります。

次に、中学生海外研修についてです。

市内の中学2年生15人がオーストラリアで海外研修を行うため、8月3日に出発式を執り行い、代表の生徒が研修に向けた思いや抱負を語ってくれました。今回の研修はホームステイを中心とした4泊7日の日程となっており、9日に帰国する予定です。

また、12月23日からは、シンガポールでの海外研修が行われる予定です。

研修を通じて海外の文化に触れ、広い視野を持った、未来を担う人材となってくれることを願っています。

次に、農業分野での業務効率化に向けた取り組みについてです。

8月5日に、INCLUSIVE SPACE CONSULTING 株式会社と共同で、衛星データ利用の実証を行いました。

農業者は毎年どこの田に何を作付けする予定かなどの情報を記した「営農計画書」の提出が義務付けられており、本市を含む多くの自治体では、提出された「営農計画書」のとおりで作付けされているか、人の目で一筆ごとに確認しています。本市では、毎年8月に、延べ300人の態勢で、およそ3万筆の農地を調査しており、大きな負担となっています。

このことから、今回、インクルーシブ・スペース・コンサルティング様の衛星データ処理技術を利用し、作付けされた作物を画像解析によって自動判別することで業務の負担軽減の可能性を検証することとしました。今後、実証事業の検証を進めながらデジタル化などを進め、業務改善を図ってまいりたいと考えています。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、夏のイベントについてです。

7月15日の北泉海水浴場の海開きを皮切りに、7月23日の原町区の「ひがし地区夏祭り」、8月5日の「サマーフェスタ2023 in 北泉」など、夏のイベントが続いて開催されています。

今後、8月12日に小高区で「おだか夏まつり2023」と「おだかるフェスタ2023夏」、鹿島区で「かしまのなつまつり」、8月14日に原町区で「市民盆踊り大会」が開催される予定です。

次に、野馬追の里健康マラソン大会とウォーキング大会についてです。

12月3日に第36回野馬追の里健康マラソン大会・第18回ウォーキング大会を開催いたします。8月1日から大会へのエントリーを開始しました。

今年は4年ぶりに、参加者への豚汁のふるまいを復活させます。このほか、ラッキー賞として、参加者の中から抽選で100名様に地元産品を贈呈します。市民の皆さんの健康増進や運動不足の解消のため、奮ってご参加ください。

次に、ロボテスフェスタ2023についてです。

9月1日と2日の両日、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構と市の共催による「ロボテスフェスタ2023」を、福島ロボットテストフィールドで開催いたします。

1日目はビジネス関係者向けの展示会・商談会となっており、ロボットやドローンなど、新産業関連企業が、機器の展示や情報交換などを行います。また、同時開催の進出企業と地域企業のマッチングイベントでは、市内進出企業である

インターステラテクノロジズ株式会社の創業者・堀江貴文（ほりえ・たかふみ）氏によるスペシャルトークも開催されます。

2日目は一般向けの展示会・体験会となっていて、見学バスツアーやロボットの操縦体験ができる「ロボットゆうえんち」などを開催する予定です。

現在、事前申し込みを受け付けています。ぜひ多くの方にご来場いただきたいと思います。

最後に、相馬野馬追執行委員長として、相馬野馬追の開催についてご報告いたします。

4年ぶりに制限がない、通常開催となった今年は、市内外から多くの観光客の皆様にお越しいただきました。

開催実績を申しあげますと、出場騎馬数は前年から24騎増加の361騎、観光客の入込数は、前年より1万8000人増加の12万1,400人となりました。

3日間にわたる各行事を滞りなく終えることができましたのは、市民の皆様を始め、騎馬会、執行委員会と保存会の皆様のご尽力のおかげです。この場をお借りして、感謝を申し上げます。

一方で、今年は7月の全国の平均気温が日本の観測史上、最も高くなるなど、大変な暑さの中での相馬野馬追となりました。

熱中症やその前兆となる症状による救護については、救急搬送11件、救護所対応83件となっており、騎馬救護所での診察については、日射病によるものが11件となるなど、昨年より大幅に救護件数が増加しました。

相馬野馬追の開催時期変更について、6月の執行委員会では、「今年の相馬野馬追が終わってから協議を進めること」としておりましたので、このような状況も踏まえ、速やかに検討を進める必要があると判断し、予定を前倒しして、8月10日に日程変更検討会を開催することといたしました。

一千有余年の歴史ある相馬野馬追をこれからも継続していくため、関係団体と協議を進めてまいります。

**【質疑応答】**

**質問 1 :**

相馬野馬追の執行実績のうち、救護と騎馬救護状況の件数は、市内で対応したものを指していますか。また救護所の場所を教えてください。

**回答 1 : 市長**

市内で対応した件数です。浪江町など市外の分は調査中です。

**質問 2 :**

救護の状況で、人・馬ともに症状の程度を教えてください。重症化したものがあれば併せて教えてください。

**回答 2 : 商工観光部長**

救護所での対応件数は95件で、熱中症及び熱中症前兆件数が83件、打撲・外傷・その他が12件、救急搬送件数が13件です。重症との報告は一切なく、救急搬送後に回復したとの報告を受けています。

馬の状況については、獣医より騎馬救護所における診療件数は112件あり、うち111件が日射病によるものと伺っています。

**回答 2 : 市長**

馬が死亡したことは承知しています。現在、五郷騎馬会に照会中のため正確な頭数は分かりかねますが、2頭いたとは聞いています。10日の日程変更検討会で報告する予定です。

**質問 3 :**

馬が日射病で死亡した事例は過去にもあったのでしょうか。また、気候に関して「暑さ指数」など昨年と大きく異なる点があれば教えてください。

**回答 3 : 商工観光部長**

馬の死亡に関しては、これまでも死亡した事例はありました。事故によって脚を骨折し、死亡した事例の報告も受けています。

気温については、本祭り日の過去5年間の最高気温（観測地は相馬市）を見ると令和5年度が35.2度で過去最高でした。令和4年度が29.8度、令和3年度は30.1度、令和2年度は21.9度、令和元年度は33.6度でした。

**質問 4 :**

馬2頭が死亡したとの話がありましたが、安楽死をさせたのでしょうか。

**回答 4 : 市長**

聞いた限りでは日射病で倒れ、起き上がれずにクレーン車で運んだと伺っています。

**質問 5 :**

今まで馬が死亡した事例があるとのことですので、過去のデータを提供していただきたい。また、馬が倒れた場合にどのように処置しているのか教えてください。

**回答 5 : 商工観光部長**

データ提供については承知しました。

馬の救護所は、旧国道から御成参道に入る箇所の北側に救護テントを設けました。獣医10人程度が点滴を打ったり、水をかけたり飲ませたりするなどして回復を待っていた状況です。

**回答5：市長**

馬の救護件数が100件を超えるのは珍しい状況でした。

**質問6：**

救護所対応件数の95件には、騎馬武者のけがなどの件数も入っていますか。

**回答6：商工観光部長**

観光客や騎馬武者などの救護件数も含まれます。

**質問7：**

市長より「馬の救護件数が100件を超えるのは珍しい」との話がありました。野馬追の維持・振興に関するアンケートの結果によると5月や、より冷え込んだ時期の希望もあったとのことですが、相馬野馬追執行委員長としてどのような時期が適切と考えていらっしゃいますか。

**回答7：市長**

開催時期については様々な方々からの意見をいただきながら日程変更検討会で決めていくものですので、意見を受けて考えていきます。

**質問8：**

開催時期は早くても再来年と伺っていますが、来年も同時期に開催するとなると最高気温を更新した時に今年と同じ状況になると思います。救護体制を見直したりするなどの考えはありますか。また、それをどのように話し合う予定でしょうか。

**回答8：市長**

各郷の反省会の中で、救護体制や暑さ対策について意見が出ています。皆さんの意見を受けながら、執行委員会として検討してまいります。

日程変更の中で、今まで決めた方針では来年は変更なしとしていましたが、今年度の開催を受けてさまざまな意見も出ており、私の元にも個人的なご意見が寄せられています。今後については日程変更検討会で、皆さんの意見を受けて考えていくことになると思います。

**質問9：**

ただいまの発言（回答10）は、来年度の日程変更も含めて検討会で検討したいということでしょうか。

**回答9：市長**

私の元に寄せられている個人的なご意見はあくまで非公式として受けているものです。一部では「開催時期がもう少し早い方がいい」との意見もあるようです。日程変更検討会の席上で議題になるかどうかだと思います。

**質問 10 :**

8月10日の日程変更検討会ではどのような話をする予定でしょうか。

**回答 10 : 市長**

第1回の会議では、これまで話し合ってきた方針や手順の確認、併せて今年の状況報告をしたいと考えています。それらを踏まえた上で今後どのように進めていくのかを話し合いたいと思っています。

**質問 11 :**

観覧数についてですが、昨年よりも1万8000人増加した一方で、通常開催だった2019年度よりは減少しています。この観覧者数をどのように捉えていますか。

**回答 11 : 商工観光部長**

昨年よりも増加すると見込んでいましたが、暑さが原因で観覧を取りやめた方がいたと思いますので、それが大きな要因と捉えています。

**回答 11 : 市長**

馬上から見た感想を申し上げます。

今年は多くの外国人の方にお越しいただいた印象です。

一方で、沿道の行列観覧席と雲雀ヶ原祭場地内の指定観覧席はともに完売しましたが、11時ごろに祭場地に入った際は空席が見られました。暑さの影響でキャンセルがあったのかと思いますが、空席があったことは残念に思っています。

**質問 12 :**

出場騎馬数の申込数と出場実績の差（7件）について詳細を教えてください。

また、今年も会場で暑さ対策を行っていたと思いますが、観客から「対策の数が足りない」との声も出ています。会場で暑さ対策を行う上で制限等があれば教えてください。

**回答 12 : 商工観光部長**

分析を行っていないため推測ではありますが、体調不良等で当日の出場が難しくなったのではないかと捉えています。

今年初めて行った暑さ対策としては、まず南北2カ所のテントにミスト扇風機をそれぞれ2台設置しました。また、栈敷席の後ろにもテントを1張り設置しました。馬への暑さ対策としては、お行列の開始前に散水車で水をまいた他、救護所にも冷風機やシャワーを設置しました。

**回答 12 : 市長**

例年ですと本人の体調や、家族で不幸があった場合は野馬追を辞退する場合があります。申込数と出場実績の差の大きな要因はその2つです。

**質問 13 :**

死亡した馬2頭は何日に倒れたのでしょうか。また、いずれも日射病によるものなのでしょうか。

**回答 13 : 商工観光部長**

2頭とも7月31日の本祭りの日に亡くなっています。1頭目は、お行列が始ま

る前に小川町で倒れ、死亡していたとのことです。2頭目は祭場地で倒れ、処置したものの起き上がれなかったため、安楽死処分したと報告を受けています。

以上